

新潟県中魚沼郡
中里村公民館
毎月1回15日
定価 1部 5円

なかせと

12月1日現在	
人 口	7,308 (-17)
男	3,603 (+ 1)
女	3,705 (-18)
世帯数	1,671 (- 3)

カッコ内は前月との比較



瀬戸口溪谷の冬景色

へき地救急協力の
家設置

今年も救急薬品を下記の所に設置しておきましたので御利用下さい。主な薬は感冒剤、歯痛頭痛、鎮痛剤、胃腸薬、貼在剤などです。

設置場所と対象部落は下表の通りです。

議員研修会開かる

る第二回臨時会が去る十一月十二日に招集され、席上、議長、副議長の選挙、常任委員長及び副委員長の互選、常任委員の指名が行なわれ、村議会構成員が次のとおり決定された。

中里村議会議決構成

議長に上村賢造氏

田代 滝沢 當春	土倉 小林 謙造	小出 山本 敏夫	角間 鈴木 国康	東田沢 村山しづな	設置場所
田代 清田山	土倉 倉下	小出 薄沢	角間 西田尻	東田沢 豊里	村部郡落

又、十一月二日には津南町芦ヶ崎の総合福祉センター御陣荘で初当選町村議会議員の研修会が行われた。この日は新潟県町村議会議長会事務局長の田村秀夫氏の解説で議会の組織と議員「議会原則」「議会と長との関係」「議会の権限」「議会の運営」についての研修を行った。当日は中島進治議員を除く新、元議員十一名が参加。

村民娛樂大會

11月25日に総合センターで

恒例の村民娯楽大会を次の要領で開催いたします。

○日時 昭和51年1月25日
午前九時より

○種目 囲碁、麻雀、将棋
かるた。

○場所 総合センター

○参加費 七〇〇円

○申し込み 一月二十日までに
公民館(電二四九三)

但し参加者の少い種目は中止
される事もあります。

第233号 (昭和37年6月27日) な か さ と 昭和50年12月15日 (4)

心洗
助け合い運動の目的
斎藤大

齋藤大馨

歳末助け合い運動がいまさかんに全国的にくり展げられている。この辺では見られないが都会あたりでは社会なべの街頭募金をはじめ地元の社会福祉協議会などが音頭をとり、書画展示即売会や、慈善バザーなどを開いている。これによる収益を恵まれない人々に贈ろうというのである。

年くりかえされるのも、こういう点を、いく分なりとも補おうとの国民の善意から出ている。あと僅かしかない歳末助け合い運動に、分に応じて喜んでささげよう。自分の稼いだ力ではあるが、お与えのほんの一部をおかえしするのだから、善行でも何んでもない。

せめてこれだけやうせていたなら

生活保護法による被保護世帯は七〇万 六六〇世帯、人口にして一三三万五〇〇八（本年五月現在、保護率は人口一〇〇〇人に對し、一二・一二である）の他に母子寮、児童福祉施設等の數、收容人員の數は今手元にトータルがないので不明であるが、この物価高に一家の主人がいてもたいへんなのに、女手一つのみ母子家庭が思いやられるさらに薄幸な施設の子供らにせめて正月三日間だけでも、あたにかい新年を、というのは人情の自然である。

むしろ、社会保障は國家のやる仕事で、一個半個のなし得るところではない。わが國も福祉國家を目ざしているが、欧米先進國のような、國家予算計上から見ればまだまだの感である。

赤い羽根の共同募金運動が年

だけの「せめてせめて」の世界である。なにも政治不信に拡大してまで、目くじらを立てるほどのことでもあるまい。

私もながい時も、小さなシレンマにおち入るのは、物乞いによる喜捨した直後の心境である。東京あたりの街頭での幼児を抱えての物乞いなどがそれである。

橋のたもとで、身を切るような寒風に吹きさらされている幼児の姿には、まったくやりきれない。思わずガマ口を開けるがあとでもう一つ、つくりこない。

いたづらに感情に流されるとささげたまふ物乞いに、罪障をつませておりはしないか。どうしたら乞食根性を精算して、ひとり立ちになつてもらえるか。とり相手の眞の幸福を願うという点に、ピントを合わさないと、同情が同情にならない。却つて相

中里文芸

十二月投稿

雁鳴くやしぐさる雨のうす月夜
 出稼で早くしてあり冬構
 ストの意味わからぬまゝに春迎
 え
 秋深し沼にうつりし茜裳
 時習 鳴石 追風 菊子 泥児

人生往来

柳	氏名	父の名	部
植			
良			
度			
本			
屋			
敷			

言われ信じられてきたこと
 小柳定夫―採集―
 正月の餅は二十九日に擲くも
 んでぬえ
 春おかね様には人の悪こうし
 ても起きていれ
 春の雷は騒動のもと
 鶯の語がでれば寝しなだ
 鬼の渡った雪の上は人が通つ
 桑原 賢吾 朝平 田代
 阿部 幸鬼 幸藏 高道山
 鈴木 淑文 正 下山
 井口 和一 和俊 上山
 高 砂
 新郎 村山 田吉 三十日町
 新婦 高井 好子 三山崎
 新郎 村山 義正 三程島
 新婦 樋口 明美 三十日町
 新郎 桑原 朝義 三倉保
 新婦 桑原 正子 三西方
 新郎 篠田 真実 三小原
 新婦 小林園生子 三川西町
 新郎 大島 利次 三荒屋
 新婦 広瀬 文子 三四十日町
 新郎 中島 弘司 三本屋敷
 新婦 二瓶トシ子 三田中
 新郎 山田 武司 三宮中
 新婦 藤ノ木寛子 三荒屋
 新郎 南雲 晴三 三堀之内
 新婦 羽鳥善三郎 三
 生れる時雨が降れば嫁にいろ
 とき降る
 まむしをとるとき頭をもぐも
 天じよくにあがる
 子が生れて一週間シメシは五
 とう様にあててはならない
 生れて二十日
 問は子を夫とよ
 う様にあてて
 道中へ鶯が出たくなつたら、
 後ろを向かないであくどにま
 る小石をひろつて腰の帯には
 さんでおくどガマンできる
 猫を踊らせると夜枕もとにき
 て踊る

